

「大東市企業紹介 ～富士発条株式会社編」

第14回は、「触れたことのない世界」を五感全開で突き抜ける製造集団」

主力は弱電バネの製造を事業とされている富士発条。

インフラ系にも力を入れられていて、水道のバルブの中、鉄道や農機の部品、

またOA機器の中にも富士発条のバネが活用されています。

今後はロボット産業にも力を入れていきたいとおっしゃっています。

富士発条では、設計から製造まで一貫して担われています。

1952年創業当時から「0～1」を作るにこだわりを持って経営されてきました。

また試作品の製造に力を入れられています。

「製造業としてレベルアップする為には、他で真似できない不の解消を形にする」

とおっしゃいます。

こういった姿勢が評価され大手メーカーとも40年以上のお付き合いになり、

共同開発を行い、特許の取得に至ったそうです。

目先のものを追うよりも、働いている人の楽しさ、苦労したものが形になる喜び

を理念にされています。

その為、社員の技術力の向上にも力を入れられていて、

現場の社員は現場歴30年の職人さんから1級技能士の資格を持たれている若手技術者までいらっしゃいます。

社員の中には「6ミリまで手で巻ける」技術を持った方もいらっしゃいます、この技術取得まで行こうとすると10年はかかる、この技術がある事で短期納期が可能になるとおっしゃいます。

また資格を取ると手当が付き、他の方からの評価も上がるのでやりがいに繋がっているそうです。



「マネージャー職から社長業に」

山中社長は芸能事務所に就職をされ、主にマネージャー、企画、営業のお仕事をされていました。その後は健康産業のベンチャー企業に転職され、営業、マーケティング部門でイベント企画や動画の企画、撮影、演出、出演、編集など一連の作業もされていました。

そういった経験から富士発条の社長になられた現在、マーケティングとは**市場を創ること**、0～1を作る技術を活かした営業活動をされています。

2021年4代目となる社長になられて、まず自社を客観的にみる、自社の技術力を把握する為に業界内での立ち位置を確認するところから始められました。これまであまりつながりのなかった同業他社様が数十社に増え、工場見学や他社様へのプレゼンテーション、業界内での技術力アップにつながる意見交換なども積極的に行われています。それにより自社の技術力の強みの発見に繋がり、受注にも繋がったそうです。一方、課題としては製品が多岐に渡っていることで他社にない強みを今後どう伸ばしていくかにあるとおっしゃいます。



「将来への展望」

今の技術をどういかしたいですか。という質問に

健康産業での経験から、当たり前が当たり前でなくなった方の生活に少しでも貢献したい、
義手義足に今の技術にいかして出来ない経験を増やすお手伝いがしたい。

今後も**不の解消**を事業に繋げて行くことで、世の為になり、社員の高揚感を高め、モチベーションアップにも繋がる商品の開発をしていきたいとおっしゃいます。



第17回では「社内制度、社内教育」など富士発条で働くということは！
と題した記事をお伝えしたいと思います。